あけましておめでとうございます

黒澤園長勲一等瑞宝章の栄に浴す

年頭のごあいさつ

酪農学園理事長　佐藤　貢

皆様には御健勝のうちに新年をお迎えの事と心から慶賀申し上げます。なお旧年中の御厚情と御協力に心から感謝し、又本年もよろしく御願い申し上げます。

私はこの新年を迎えるに際して、先ず最初に皆様と喜びを共に致したい事は、当学園の創設者であり、今日の発展に甚大な御尽瘁を賜わった黒沢園長先生が昨秋、勲一等瑞宝章の栄えある叙勲に浴された事であります。

この事は園長先生御一門の栄誉は元より、私共学園に関わる一同にとりましても誠に光栄に存ずる処で、衷心より慶祝の意を表してやみません。

園長先生は本年で数え年九八歳を迎えられましたが、その御生涯を顧みれば、青年時代より知行一致の精神に徹し、国土の尊厳と農業の重要性を力説し、渡道以来八〇年に近い長年月に亘り、酪農の振興と北方農業の確立に心血を注がれ、健土健民の理想を提唱し続け、自らその範を示して本道の開発に偉大な貢献をされた事は天下周知の事実であります。私共は園長先生が目指される百歳の長寿に向って更に御自愛を賜わり、御健勝であられますよう、皆様と共に深く祈念したいと存じます。

さて昨年は不確定時代と云われる一九八〇年代の初年度で、国際的にも国内的にも種々の変革と不安の現象に遭遇しましたが、当学園は皆様の御支援と御協力の元に、建学の精神を堅持して教育と研究の成果を挙げる事が出来ました事は誠に感謝に堪えません。更にまたかねて計画中の獣医学科の第三棟校舎の新築を完成して六年制の実施と、大学院博士課程の設置に備えると共に、酪農学科にも修士課程を設置して、愈々酪農の最高学府としての体制を整えるに至りました。これ偏えに役員各位の御支援と教職員の御努力の賜物と存じ感銘に堪えません。

またアルバータ州立大学との学術交流については一昨年派遣した短大の横山節麿助教授が無事研究を終えて帰られ、代って大学の岩井正敏助教授が昨年九月以来研究を続けて居ります。なおこの交流計画とは別に九津見明教授が、六ヶ月間同大学の英語学科の客員教授として、更に研鑽を重ねる機会を得た事は、この多年にわたる交流の賜物と喜びに堪えません。更にまた同大学のドミトリ・ハジェフ博士が昨年七月以来三ヶ月間御夫妻で学園内に居住され、大学の乳製品研究室並に化学研究室において研究を重ね、交換教授としての役割を果して帰られた事は、当学園にとって極めて意義ある成果と存じます。

また今春派遣の酪農研修生については去る一一月中旬に募集し試験の結果は、派遣者一〇名中の九名が当大学、短大の学生である事は、過去八年中で始めての事でありますが、これも在学生の間にこの交流の意義を深く理解するに至つた事と、教授陣の交流や米人英語教師クラーク氏との触れ合い等から国際的感覚が芽生えて来た証左と考えられ誠に喜ばしい現象と存じます。特に低学年生の中からその希望者が現われて来た事は、将来の酪農後継者として学術を積み重ねる前に先ず身を以て海外の酪農を体験したいという意欲が本人と父兄の間にも湧いて来た事は素晴らしい事であり、欧州諸国において農工業の大学教育において入学前に二～三年の実務体験が要請されている点に鑑み、また当学園が実学教育に力を注いで来た伝統に照しても極めて意義ある事と存じ喜びに堪えません。

以上明るい面の事を申し述べましたが、反面種々の悩みにも直面しております。

昨年の冷害や全国的牛乳の生産調整の影響は元より、未曽有の台風豪雨による農場の被害は予想外に大きく、学園の収支に打撃を蒙り遺憾に堪えません。

次は、最近における私学を取巻く社会的環境と学生の進学指向の変化に伴い、全国的傾向として、入学志願者の逓減の兆が現われ始めた事は留意すべき問題であります。これについては役職員一体となって対応策を検討する必要があります。特に本年度においては丙午の関係から高校入学者数が激減する徴候が統計上明らかであり、これが全国の私学に及ぼす影響が憂慮されております。しかもかかる状況下にあって札幌、江別市共に公立高校の増設が計画されている事は更に私学への影響を増大する事となるので、重大関心をもってその対策の樹立が急務と考えます。

およそいかなる事業においても、時代と環境の変化による影響は免れません。特に不況や苦難の時代における適切敏速な対策と努力如何が、極めて顕著に業績を左右し、事業間の格差を増大するものであり、結局努力がなければ脱落を免れません。更に重要な事は、学校と教職員がその地域社会から親しまれ信頼されているかどうかという点が、難局に遭遇した際特に大きく物を云う事であります。

人を教育する機関である以上、建学の精神がいかに立派であれ、実際教育にたずさわる教職者の言動や教育態度、社会的信頼度が、その学校に対する総合評価となって現われます。

私は最近各都府県の私学の実態を調査する機会を得て、大変参考になりました。特にその中で強く印象づけられたのは、創立後の年数に関係なく、地域社会のニーズに対応し親密度の高い処、教職員が教育の情熱に溢れ父母の信頼度の高い学校については、大学から中高校に至るまで、国公立を凌ぐ量質両面で多くの志願者が集まり、定員以上の学生生徒が在籍しているという実態であります。

当学園においてもこの生きた教訓に鑑み、私学の特質を発揮して役職員が虚心胆懐、一体となって相協力し、使命の達成に邁進する様念願してやみません。

第34号
酪農学園発行
北海道江別市西野幌582
発行所　編集委員会
印刷所　凸版印刷㈱

聖句

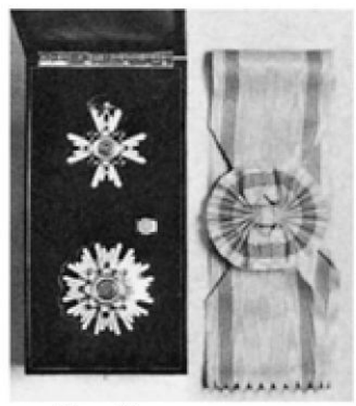
求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。

マタイによる福音書七章七節

黒澤園長に勲一等瑞宝章

▲黒澤酉蔵氏は紋付羽織はかまの正装＝中央＝、大西道開発事務次官（右）から受けた勲記を感慨深げに読む。左端二男信次郎氏、介ぞいは同夫人宮子さんと長男力太郎氏＝札幌医大病院院長室

▶勲記



▲勲章

黒澤酉蔵園長は五六年秋の叙勲で、民間人としては異例の再々叙勲の栄に輝き、勲一等に叙せられ瑞宝章を賜わった。

勲一等受章者は、陛下自らが勲章を授けられる親授式に列席する慣しであるが、黒澤園長は主治医の勧めに従って欠席した。このため、一一月一〇日、入院先の道立札幌医科大学附属病院長室で、伝達式＝写真＝が行われ、大西昭一北海道開発事務次官から、勲記と勲章が伝達された。

黒澤園長は、三九年秋に酪農畜産開発功労により勲三等旭日中授章を、四五年秋には北海道開発功労によって勲二等旭日重光章を受けておられ、今回の栄は、三度目に当る。

再々叙勲の功績は、(1)寒地農業の確立(2)北海道開発の推進(3)言論報道・文化事業への貢献(4)政界功労の四分野にまたがっており、(1)寒地農業の確立功労の中で、酪農振興と乳製品生産販売体制の確立と並んで、北海道酪農義塾創立に始まる酪農経営者育成に尽瘁した功績が特記されている。

また、文化功労の中では、黒澤園長が最晩年の事業として心血を注いで完成した大著『田中正造全集』（全二十巻、岩波書店刊）が高く評価されており、さらに黒澤園長の『健土健民論』について、その源流が豊かな土壌なくしては健全な国家、健全な国民はあり得ないと信じた田中正造翁の教えにあること、寒地農業確立に全精魂を傾けた黒澤園長の精神的基盤をなしていることにまで言及している。

黒澤園長は、伝達式後、『このような評価の上で与えられたことは重ね重ねの光栄です』また『余生を北海道の天地人に捧げて、ご恩報じをせねばならぬ』と語っていた。

お祝いのことば

北海道知事　堂垣内尚弘

明けまして、おめでとうございます。

昭和五七年の新春を酪農学園の皆さんとともに迎えることができましたことは、私の大きな喜びであります。

黒澤酉蔵酪農学園長が、昨年「文化の日」のよき日に、全国において二人目という異例の再々叙勲で、勲一等瑞宝章の栄に浴されましたことに対し、道民を代表致しまして敬意と祝意を表します。

学園長のこの御受章は、当酪農学園の発展はもとより、多年にわたり北海道開発審議会会長等として、北海道開発の推進に貢献されますとともに、寒地農業の確立・酪農の普及発展に寄与されたご功績によるものでありまして、我が郷土の誇りであります。

新春に当たり、学園長並びに皆さんの御多幸と御健勝を祈念し、お祝いのことばと致します。

江別市長
山田利雄

栄えある勲一等瑞宝章のご受章まことにおめでとうございます。

ここに江別市民の皆様とともに、長年のご功労をたたえ、今回のご栄誉を心からお祝い申しあげる次第でございます。

黒澤酉蔵先生は、この北海道の恵まれた大自然に近代酪農を創りあげることに心血を注ぐとともに、酪農振興は「先ず教育から」という信念のもとに、広大な野幌原始林を背景に、酪農学園を創立し、多くの困難をのりこえ、我国においてもユニークな酪農専門の学園として今日の発展をとげられたのであります。その原動力がまさに先生であると言っても過言ではありません。このような事から今回の受章もまた当然のことと存ずるものでございます。

また、先生の哲学とも言うべき「健土健民」は、今日おかれている複雑な社会情勢の中にあって、私どもに対する教訓として生かさせていただくべき貴重なお言葉でございます。

どうか、先生には、ますますご自愛くださるとともに前途の限りなき御多幸と御健勝をお祈り申しあげお祝いのことばといたします。

雪印乳業株式会社社長
（酪農学園副理事長）
山本庸一

この度、黒澤酉蔵先生が最高の栄誉である勲一等瑞宝章を受章されましたことは先生始め、ご親族の方々のお喜びはもとより先生の後に従い酪農乳業の道を歩む多くの方々にとりましても、この上ない喜びであり、心からお祝いを申し上げる次第でございます。

先生が明治三八年に渡道されて以来、北海道酪農発展に尽くされたご功績は計り知れない程数多く歴史の中に残され、正に今日の北海道酪農は先生を中心として成長を遂げたと申しても過言ではないでありましょう。

今や酪農業は日本農業の大きな柱としての地位を築き上げました。その酪農業界の代表として先生が初の最高位叙勲を受けられましたことは、私共にも大きな励ましとなり、又、先生の偉大な業績を引き継ぐ者の一人として身のひきしまる思いが致します。

先生のご功績は酪農乳業にとどまらず、人材育成のため学校法人酪農学園の創立、広範囲な北海道開発計画への参画、更に報道事業にも関心を持たれ、又若き時代の恩師田中正造翁の全集出版に奔走する等の広い分野に及び、その社会、文化、産業の各方面の発展に注がれた熱意、行動力の成果は、この度の栄誉が如実に物語っております。

先生の今日までの人生の中に流れるものは、正義感に燃えたゆるぎない信念と断固としてこの信念を貫く行動力であり、その烈々たる闘志は私共にも大きな勇気を与えて下さいました。

今は先生も往時の如き激務からも解放され静かな生活を送られておりますが、私は先般の叙勲伝達式に陪席させていただきましたが、往時厳しい道を歩まれた先生も今は穏やかな毎日を過されておられるお姿に接し感無量のものがございました。

先生には今後も大先達として大所、高所からご指導を賜りたいと念願しております。

最後に先生の今後共、益々のご健勝をお祈り申し上げましてお祝いの言葉と致します。

北海道酪農協会会長
福屋茂見

この度、黒澤先生には最高の栄誉である勲一等を受けられ改めて先生の永年にわたる御業績を偲び心からお祝いを申し上げます。

先生の御存在は私共酪農を志ざす者にとって偉大な師父であり、大きな心の支えであります。

今酪農界は深刻な危局に立って居りますが先生があらゆる試練を乗り越えて来られた永年の足跡を回想しながら老骨に鞭打ち闘志に燃えて、この混迷を克服して何とか明るい未来を築き上げたいと決意をあらたに致して居ります。

去る九月三日例年の様に私自身の手作りのメロン、スイカなどを持ってお伺いしましたが、少々風邪を引かれたそうで、咳が出るご様子でしたが、それでも約一時間近くも歓談され、わざわざ玄関までお見送りいただくほどのお元気さでしたが、更に主治医の和田医大学長の許で完全な健康管理を受けられ一段と復調された事を承り、心から喜んで居ります。益々の御健在を祈念申し上げてお喜びの言葉と致します。

酪農学園同窓会連合会長
（ホクレン専務理事）
高橋節郎

このたび、黒澤園長先生には、勲一等瑞宝章の栄に浴されましたこと、卒業生一同にとりましてこのうえない喜びであり、心からお祝いを申し上げる次第であります。

北海道の酪農の振興に全精魂を傾けられた先生のご功績は筆舌に尽せないものがありますが、草創期の学園に在学した私は、先生の「神を愛し、人を愛し、土を愛する」三愛の精神にふれ限りない感動を覚え、酪農を志し現在に至っております。

卒業生の中に、強く「酪農への情熱」を育んで頂いたこと、心からお礼を申し上げる次第であります。

現在わが国の酪農は未曽有の困難に直面していますが、その難しい内外の情勢を踏えた中から、安定した酪農を作り上げて行こうという芽が逞しく育ってきております。

先生の歩まれてこられた「大いなる足跡」を体し、先生の掲げられた理想に少しでも応えられるよう、みんなで努力して参ります。

先生は、ご高齢ではありますが、もっともっと長生きして頂き「これからの酪農」にご指導をお願い申し上げ、お祝いのことばといたします。

酪農学園教育の原点

副学園長
遊佐孝五

皆様方には御健勝で新しい年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。

昨年文化の日には学園長黒澤酉蔵先生が、北海道の開発と教育に尽されました偉大な功労により、勲一等瑞宝章の栄誉に輝かれましたことは、誠に慶賀の至りでありまして、皆様共々心からお慶び申し上げる次第でございます。

今から半世紀前の北海道を顧みました時、厳しい自然環境もさることながら、開拓当初からの穀菽農業による積年の略奪農法に加え、昭和六年から一〇年にかけての連続の冷害、風水害による凶作で、北海道の農業は一大危機に直面し農民の心も荒廃したのでありました。これを打開するには、酪農を主とした北方寒地農業を確立する以外にないとし、このためには農民教育、青年教育の推進が先決必須であるという観点から、黒澤先生はじめ北海道の酪農民有志が相集い、自らの手によって教育の場として酪農学園を創設したのでありました。

昭和八年、僅か八〇人の生徒で開塾された学園も、多くの試練苦難を経て、現在では大学院、大学、短期大学、機農高校、三愛女子高校、そして通信教育酪農学校という教育研究組織に迄発展し、西野幌一五〇㌶のキャンパス内には四、〇〇〇人に及ぶ学生生徒、教職員が毎日教育研究にそれぞれの責任を果しているのであります。黒澤先生が播かれた一粒の種は五〇倍、一〇〇倍の良い実を稔らせて成長したことを思い、感謝と共に今昔の感を深くするものでございます。

第二次世界大戦の敗戦は我が国に大きな転機をもたらしたものでありましたが、本学園におきましても、昭和二〇年の敗戦は第二の転機であり、戦後我が国の混乱と虚脱状況の中で、黒澤先生はデンマーク復興の歴史に思いをおこし、日本再建の祈りをこめてキリスト教の三愛精神と実学主義をもって酪農学園の建学の精神とし、人間教育に取り組む決意を固めたのでありました。即ち本学園の教育の根本に流れているものは、三愛精神に根づいた人間教育であります。

一九八〇年代から二一世紀にかけて、世界の趨勢は過去の物・量の時代から心の時代、人間尊重の時代に変換せざるを得ないと言われておりますが、我が国においても近年巷間に人間阻害の風潮が多くみられ、特に青少年の非行や非人間的行動が大きな社会問題として取り上げられております。この点から言って、私共教育に携わる者としては、技術や知識の獲得より先に、自己の内面をしっかり見つめ、人間としての生き方を真剣に考えてゆく人間教育の先決性重要性を考えざるを得ないのであります。その意味において、酪農学園に学ぶことによって、高校、大学を問わず、その人間の内面に秘められている価値ある人間性が引き出され、その人間の生き方や人生を変えてゆくことが出来るとするならば、それが学園の教育であると考えます。

機農高校に学ぶことによって、全寮教育や農場実習教育の中から労働の尊さと収穫の喜び、一つ鍋の生活の中から人間同志の連帯の重要さを確認し、土と闘い日本の土台を支える人間へと成長してもらいたいものです。

三愛女子高校に学ぶことによって、日常の教育諸活動の中から人間性を養い、各種の奉仕活動を通して地域と密着し、開かれた学校として地域社会との連携を図り、地域住民の信頼と尊敬を得、豊かな心を持つ品位ある女性として成長してもらいたいものです。

短期大学、大学に学ぶことによって、学問の研究教育を通して生命の尊厳を認識し、事象に対する理解力、洞察力、創造力、そして総合力を身につけ、我が国を担う指導的人間へと成長してもらいたいものです。

黒澤先生は「私は神を愛し、人を愛し、土を愛す、三愛こそ神の道、人の道と信じており、これを実践しうる人材を開発することが酪農学園に課せられた使命と確信している。」と述べております。これが酪農学園の教育の原点であり、教育理念であります。学園に集う教職員がこれを先ず自己のものとして確認の上日常の教育活動の中で実践し、学生生徒と共に一致してその具現に努力しなければならないと考えております。

明年酪農学園は創立五〇年を迎えますが、私共はこれを第二の転機とし、二一世紀に向って進んでいる多様な社会の要求に応えるため、単に酪農教育や女子中等教育の範囲に止まらず、次元を超えて広く学園の教育全般について再検討し、本学園の特色を発揮する人間教育の場を確立させることが出来るならば、永遠の発展につながるものと考えているのであります。

皆様方の今後一層の御指導御鞭撻を願って止みません。

クリスマス・メッセージ
神からの贈り物

三愛女子高等学校宗教主任
栄潤子

クリスマス。これは私達にとって大変、心踊るうれしい時で、お正月とはまた違う夢を抱く時です。

何故でしょうか。ただ子供と一緒に楽しめる行事だからではありません。それは私達人間が神からのすばらしい贈り物を頂いた日だからです。二千年前この世に生れ、三十余年生きたナザレのイエス。このイエスが、私達に与えられた、神からの贈り物なのです。

聖書が私達に示す神は、静かに座している神ではなく、人間の不義を怒り、罰するお方であり、又一面、人間の悩みを聞き、道を開き、導き、更に愛し、赦して下さるお方です。私達の間に生きて働かれる神です。その神の姿をはっきり示すために、イエスはこの世に生れたのです。

全世界がイエスの誕生を喜ぶのは神が人間に無関係なのではなく、人間を愛して深い関わりを持って下さるからなのです。

私達は多くの学生生徒を委ねられています。教師が自分に無関心であると思っている場合は喜んで学生生活が送れない、教師との良い関りが出来た時、それまでと違った生き生きとした生活に変って行きます。

神が私達に関りをもつためにイエスが誕生したのです。贈り物が人の心を結んで行くように。

六年制獣医学教育について

獣医師法の改正により昭和五三年度入学者から六年間の教育を修了したものでなければ獣医師国家試験を受けることができなくなった。この改正は、産業動物や愛玩動物の臨床、食品衛生、環境衛生、公害問題などの公衆衛生分野を通じての人間の健康、実験動物の管理や魚病制圧の指導など広範な分野においてより高度な獣医学の知識と技能を持った獣医師が社会から要望される事態に対応するためになされたものである。

獣医学教育は、医学や歯学と同様に本来学部教育が六年間であるべきであるが、学校教育法五五条の改正が行われるまでは四年の学部教育に二年の修士課程の教育研究を積上げる変則的な方式で今年四月から発足することになった。しかし本学では獣医学教育を学部・大学院一貫して行う方針で授業科目の年次配当を行っている。すなわち、教養課程（一般教育科目、外国語科目、保健体育）を最初の二年間で行い、専門教育を三年次（一部二年次）から六年次まで行う。専門教育には斉一教育科目と専修教育科目があるが、前者では基礎獣医学、畜産学、関連学科目、臨床獣医学、応用獣医学の諸科目を学び、後者では基礎、臨床、応用の三分野のうち専攻する一分野を重点的に一層深く履修するとともに課題研究を行って報告書を提出することになる。

この制度の変革に伴って、従来一学年一〇名の修士課程定員を一挙に一二〇名に増加する必要が生じ、これに対応するため講座増設、教員スタッフと施設設備の充実が着々と進められている。その進捗状況に関して先般獣医視学委員による実地視察が行われ、概ね可であるが、教育研究上一部の問題については今後更に充実に努めるよう講評された。

獣医学科の講座数は本学第一次長期計画の最終年度の五八年には一四となるが、一部の私大ではすでに二一講座ができており他の大学もこれにならう状勢にあるので、今後外圧が強まりそうである。校舎については三号館が完成（酪農学園だより前号参照）したが、木造校舎もまだ残っており、放射線学の教育研究のためRI施設の新築がさし迫った問題となっている。更に入院施設、実習用研究用動物の収容施設も満杯の現状で早急に改善が望まれる。

今後は全員が修士課程に進むわけで博士課程志望者も増えることが予想され、同時に学内外からの論文博士を請求する途も開かれるので、大学院の研究指導態勢も充実整備されなければならない。

以上獣医学教育六年制についてあらましを申し上げたが、現在の四年生が六年生になる五八年度には授業時間数が著しく増えるので教員の負担も大変である。獣医学科教職員一丸となって努力しなければならないが、各位のご理解とご支援を切にお願い申し上げる。

学校だより

三愛女子高等学校
クロード・サヴァ氏 ピアノ演奏会

国際コンクール優勝のカナダのピアニスト、サヴァ氏の特別演奏会が一〇月一日札拝堂で開催された。クラシック音楽嫌いの現代っ子たちも、涙を浮べる名演奏会であった。

又、生徒のマナーに気をよくしアンコール二曲を演奏して下さった。

秋の読書週間

一一月九日～一四日

この週間の一環として、東京から声優の北川智絵さんを招き講演していただきました。今までの講演と一味違い「語り」の実演を含め、九〇分の長さを感じさせないあざやかさで、最後に、さねとう・あきらの「おこんじょうるり」を語ってくれ、登場する一人一人の人間を実に丹念、見事に演じ分け、さすがに、プロフェショナルと唸らせる講演であった。

文楽鑑賞

一一月一三日

黒衣が消える。人形が自由自在に動き始める。三味線に合わせて語り始める。まるで生命が吹き込まれたかのように。赤子が泣く、乳が欲しいと泣く。母は乳が張る、赤子に飲ませたいと泣く。

生徒達は親の情けでも感じたであろうか。人形の世界を越えて、情感が観る人の心をつかんで離さない。

今年の古典演劇教室は、「文楽」鑑賞であった。

一九八二年度「新教育課程の特長」

国の教育課程は、小学校、中学校と順次変更し、来年度より高等学校が変わることになっている。

教育課程の改訂は、社会の変化や子供達の発達状況に応じて変るものであるが今回は特に詰込み教育をやめて、「ゆとりある教育」をキャッチフレーズに文部省から改訂されてきた。

本校では、二年前より私学の独自性と三愛精神に根ざした教育課程の編成をしており、その特長は以下の内容である。

㈠聖書を通して、イエスの生き方を学び、歴史的課題である「平和」をつくり出す学習を、礼拝や社会科、修学旅行、社会見学、キリスト教教育週間等をもって組み立てる。

㈡愛の実践として、奉仕活動を礼拝や聖書科の中で学びつつ校外活動や学年活動として時間を設定して、体験的学習を行う。

㈢女子の特性を生かすために子を産み、育てる存在として、体力や情操を高める教科の充実、体育・芸術・家庭・保健の内容を連携して実践できる方向を強める。

㈣進路をはっきりさせ、進学コースと就職コースとに、二年より分けて、学習内容も進路の適性に応じて強化する。たとえば、進学者には、言語を強化し就職者には、珠算・簿記・ペン字の検定に合格する力をつけるなど工夫している。

㈤美術・書道・音楽を全員履修できるよう設定している。

㈥数学は、一年時に、段階的にわかりやすく指導するために少人数指導を工夫する。

以上のように、私学としての建学の精神から人格形成をするべく、配慮、工夫した教育課程となっている。

教育は100年の計

獣医学科教授　牛島純一

黒澤西蔵園長は、聞手の心に生き続ける言葉を、口癖のように言われる。「教育は一〇〇年の計」もよく耳にする言葉の一つである。酪農義塾に始まる学園の酪農教育も間もなく一〇〇年の二分の一になろうとしている。そのうち我々がお手伝いをさせていただいているのは三〇年であるが、この期間だけでも教育は一〇〇年の計という意味がおぼろげながら分ってきた。

例えば、短期大学で一緒に切磋琢磨した卒業生の方々のご子息達の何人かとは現在また一緒に勉強させてもらっているが、これはまことに教師冥利と申すべきであろう。

またこの数年酪農は危機に見舞われ、混迷からの脱出にむけて苦悩中である。ところで昭和五五年度における北海道の酪農家戸数は、二万一、三九〇戸である。これに対して義塾開設以来大学を含めて学園の卒業生で北海道在住者は、同年度で六、三五四名（但し三愛女子高、酪農学校は除く）の多数にのぼっており、これら卒業生の大半は何らかの形で酪農に関係しておられることであろう。現に大学や短期大学を卒業して道の農業改良普及所で普及員として活躍している方は九五名、道内の高校、中学の教諭として教育活動に当っている方は一六九名、酪農家と関係の深い家畜共済組合の診療所で獣医師として乳牛の衛生に携わっている方は一三六名、自営者が大多数とみられる機農高校の卒業生、二、四二九名、この外に大学、短大卒業の自営者や農協の指導者、道の農務部、衛生部、市町村の官吏として、あるいは乳業会社をはじめ多くの酪農関係企業で活躍している方々も多数おられ、もはや北海道酪農の浮沈は酪農学園の教育に懸っていると言っても何の誇張もなかろう。

しかし園長は酪農学園史に「学園はやっと緒についたに過ぎない」と言っておられる。佐藤貢理事長は「日本の酪農振興策が講じられてからまだ四半世紀も経ていない。…日本酪農は軌道に乗りかけたばかりである」と酪総研一二号に述べておられる。最近の異常な酪農危機説のなかで、原点回帰説が方々で力強く叫ばれている。酪農教育の方向は誤りなく指し示されている。次の五〇年間になすべきことは、「緒についた」学園教育を練り上げて真の酪農業として「軌道に乗せる」ことであろう。「なせば成る」これも園長のいつもの口癖の一つである。

機農高等学校
〝全道高校駅伝に出場し健闘する〟

第二四回全道高校駅伝が一〇月二六日、胆振管内洞爺湖一周四二・九五キロのコースで行われ、全道から四二校の選手が参加、健脚を競った。

本校選手もよく健闘し堂々十位に入賞その堅実な競技態度は観衆から好感が寄せられた。

また、高体連札幌地区長距離リレー大会（一〇月二四日）においても二一校出場し、第二位を獲得、三年柴田美都夫君は区間賞をマークした。

▲駅伝出場メンバー

全国学校農業クラブ大会で 大西君 優秀賞 一位を獲得

石川啄木や宮沢賢治ゆかりの盛岡市において一〇月六日～八日、全国各地の代表二千余名が集い、若人の熱気の中で全国大会が開催された。

北海道地区大会で最優秀位賞を獲得して本道代表で出場した三年大西一仁君は、乳牛審査の部で見事優秀賞一位に輝いた。

共に出場した二年乙部陽一君は、養豚の部で活躍したが残念ながら入賞は失した。しかし講評において、その審査眼に立派なものがあると高く評価を受けた。

両君の今後の活躍と健斗を祈ってやまない。

▲農業クラブ大会出場の大西君（左）と乙部君

推薦入学制度を活用して優秀な酪農後継者を

機農高校では、本年度より新しく推薦入学制度を設け、広く全国の同窓生の皆様から優秀な酪農後継者の推薦を期待している。

入学希望者がおりましたら直接本校へ電話等でお問い合せ願いたい。

問合せ先
江別市西野幌五八二番地
☎〇一一三八―㈥―一一一五

機農高等学校
〝全道高校駅伝に出場し健闘する〟

第二四回全道高校駅伝が一〇月二六日、胆振管内洞爺湖一周四二・九五キロのコースで行われ、全道から四二校の選手が参加、健脚を競った。

本校選手もよく健闘し堂々十位に入賞その堅実な競技態度は観衆から好感が寄せられた。

また、高体連札幌地区長距離リレー大会（一〇月二四日）においても二一校出場し、第二位を獲得、三年柴田美都夫君は区間賞をマークした。

全国学校農業クラブ大会で 大西君 優秀賞 一位を獲得

石川啄木や宮沢賢治ゆかりの盛岡市において一〇月六日～八日、全国各地の代表二千余名が集い、若人の熱気の中で全国大会が開催された。

北海道地区大会で最優秀位賞を獲得して本道代表で出場した三年大西一仁君は、乳牛審査の部で見事優秀賞一位に輝いた。

共に出場した二年乙部陽一君は、養豚の部で活躍したが残念ながら入賞は失した。しかし講評において、その審査眼に立派なものがあると高く評価を受けた。

両君の今後の活躍と健斗を祈ってやまない。

生きる三愛教育

三愛女子高等学校第六期生　江別市大麻沢町　山下あい子

三愛を卒業して、早や両手の指では数えられない程の年月がたつてしまいました。高校生時代は、一番感受性の強い時期で、真実を求めはじめた時でした。そのような時を、三愛で過ごし、多くの事を教え学ばされ貴重な学園生活を送らせていただきました。それが、現在の私の基となっております。

私立の良さは勉強だけでなく先生達との触れ合いから教えられる人間教育だと思います。特にキリスト教による人格形成の重要性を大切に受け留め、公立を止めて三愛に入る事を両親に勧められ入学したのは、私の性格にも、確かに合っていたと思います。授業の合い間の先生達の話、クラブの中で先生や仲間との語り合い、もちろん礼拝での説教や講演会での話し等を通して、自分の生き方、人生の価値観を学びました。

卒業後、再びキリスト教主義の大学で学び、現在教会附属の幼稚園教師になっていますが、この幼児教育に携わるきっかけは、三愛での教育を受けたからだと思います。

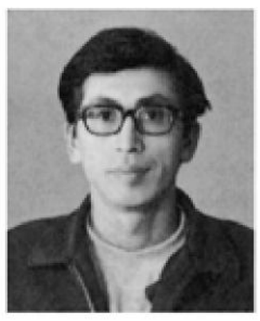
今、自分が教師をしている事に、面映いような不思議な感じを持ちます。でも、私が学校の先生に一番親しさを持って接し、人と人とのつながりの素晴らしさ、大切さを三愛で学んだおかげだと思います。今、自分が教師として問われる時に、保育の技術や方法ではなく、人間性を問われる時にやはり、自分がそうであった様に、慕われる子どもから受け入れられる様な大人でありたいと願うのです。そんな願いを持って働き続けています。

三愛で仲間になった友達も、今それぞれに社会との関りを積極的にしています。ひとりは盲人の方達の為にテープの吹き込みの奉仕をし、ひとりは、子育てから少し解放されて結婚前の仕事の日本語を外国人に教えており、ひとりは、ご主人の仕事を一緒に手伝い、ひとりは、自分の技術を研き作品作りに励んでいる人達です。それぞれの環境で、それぞれの生き方をし、お互を励まし合って親しくしている仲間がいます。

自分に与えられた道、それを大切にこれからも歩み続けたいと思っています。

機農

機農高等学校第二一期生　斜里郡小清町中里　中山寿雄



同窓の皆様、あけましておめでとうございます。思えば昨年は台風による被害や乳牛相場の低迷など非常に厳しい酪農環境の中で、酪農家も指導者にとっても大きな試練の年であったように思います。年も改まり難局乗り切りに意欲を燃やしておられることと思います。

さて私は昭和四〇年に機農高校を卒業して以来酪農経営に取り組んでいますが、経営にたずさわる期間を概ね二〇年とすると、前期一〇年間を規模拡大の時、中期一〇年を技術確立の時、後期一〇年は安定経営の時と位置づけて考えています。

私の酪農経営の前期は、高度経済成長期であり、社会もまた急激な変化をしていた。その中にあって農村では離農する者も多く出て、その跡地を買い求め又機械化とあわせ規模拡大を行って来ました。現在中期に入り生産調整など内部充実の時となり、経営面積三六㌶で四八年に経産牛六二頭、育成牛六五頭をピークにその後現在の経産牛四五頭、育成牛四五頭前後の経営へと転換を図って、ピーク時に経産牛一頭当り年間五㌧を切る様な状態からようやく六・五㌧と向上させ、乳牛の改良と新乳検事業への参加が大きく効果を現してきています。これらを更に前進させて経産牛一頭当り乳量を七㌧にまで高めることを当面の目標としております。

私が強く印象づけられ、また精神的なよりどころとなっているのは酪農学園を取り巻く多くの先達の言葉です。特に機農高校の命名の由来となった『機を知るは農の始めにして終りなり』は、私にとってまさに、人生の指針となっております。

今、私は何を為すべきか！〝機〟を知ることの難しさを痛感すると共に機を失せずに行動できる人間になる様、意欲を燃やし励んでおります。

人事発令

大学

◇昇格
五六、一〇、一発令
主事（主事補）大井裕子

◇新任
五六、一〇、一発令
教授　中西　宥

◇復職
五六、一〇、一発令
講師　山本克博

事務局

◇新任
五六、一〇、一発令
技師補　奥平武市

大学紀要 Vol. 9, No. 1 掲載
論文紹介（一〇月発行）

【自然科学編】

◆研究論文一四編

一、ミオシンの加熱ゲル形成能に関する研究―アクチンの重合による影響。鮫島邦彦・高橋俊幸（肉製品製造学研究室）

二、The number of spermatozoa in different sites of the epididymis of boars. 平尾和義・嶋野幹夫（家畜繁殖学研究室）

三、草地における雑草の生態的防除に関する研究（第四報）温度条件が雑草の生育および体内成分におよぼす影響。村山三郎・船水正蔵（飼料作物学研究室）

四、混播草地における草種の競合に関する研究（第五報）土壌水分の相違が生育、収量、草種構成および体内成分におよぼす影響。小阪進一・村山三郎・船水正蔵（飼料作物学研究室）

五、高カリウム飼料へのブドウ糖添加がめん羊のミネラル代謝に及ぼす影響。西埜進・今泉万理子・近藤誠司（家畜管理学研究室）

六、アルファルファの葉と茎の乾燥速度線図とその理論モデル。野村喬（農業機械学研究室）

七、A Note on Normal Algebras over Commutative Rings Dedicated to professor GORO AGUMAYA on his Sixtieth Birthday. 斉藤瞭（数学研究室）

八、Quantum Theory of Resonant Oscillation. 荒木重美（数学研究室）

九、孵卵中の照明が純粋種およびその交雑種の鶏胚発育に及ぼす影響。市川舜・森津康喜（家畜育種学研究室）

一〇、Occurence and Biology of the Celery Weevil, *Hypera adspersa* var. *alternans* STEPHENS in Hokkaido, Japan. 坂本与市・菊田治典・新国忠（農業害虫学研究室）

一一、胸部心臓逸所症の子牛の一例。阿部光雄・清水俊一・平賀武夫・岩佐憲二・竹花一成・小林邦弘（家畜解剖学教室）

一二、犬の十二指腸腺に関する研究。竹花一成・阿部光雄（家畜解剖学教室）

一三、肥育牛の前胃粘膜にみられる気腫に関する病理学的考察。千早豊・松川清・水島俊一・岸本政藤（家畜病理学教室）

一四、*Babesia gibsoni*：実験感染犬に対するレバミゾールの免疫増強効果。高橋清志・其田三夫・黒沢隆（家畜内科学教室）

◆修士論文一〇編

一、豚の卵胞嚢腫の形態と末梢血中および卵胞液中の性ステロイドホルモン値に関する研究。池野はるみ（家畜臨床繁殖学教室）

二、犬の胃におけるX線二重造影法に関する研究。重下博之（家畜外科学教室）

三、ワラビの発癌物質の検索。金子剛（家畜生理学教室）

四、過酸化水素溶血試験法の血清中 Vitamin E 濃度推定への応用とその簡易化。斉藤文護（家畜臨床繁殖学教室）

五、血中 Progesterone の酵素免疫測定法による豚の早期妊娠診断。嵯峨伸彦（家畜臨床繁殖学教室）

六、馬の蹄葉炎における蹄の走査電子顕微鏡による観察。中出哲也（家畜外科学教室）

七、カリウム塩投与牛の臨床学的観察。原武司（家畜内科学教室）

八、大動物用X線透視装置による牛の腹底部の観察。藤井裕久（家畜外科学教室）

九、ワラビの毒性因子の *Salmonella typhimurium* に対するスペルギルス菌症の病理発生に関する研究。水島俊一（家畜病理学教室）

【人文・社会科学編】

◆学位論文一編

一、家族農業経営における労働力構成と経営展開、岩井正敏（農業経営学研究室）

◆研究論文六編

一、函館文庫研究。長谷川誠一

二、小農経営の形成過程。久米小十郎（酪農経営研究室）

三、創設期のライファイゼン型農村信用組合―統計資料をもとにした考察。村岡範男（農業協同組合論研究室）

四、現代国際関係分析の一視点―高度科学技術工業制商品生産社会の拡大とトランス・ナショナルな関係の一般化。太田一男（法学研究室）

五、宇宙の軍事化に関する一考察―アメリカ・国防情報センターの The Defense Monitor を資料として。太田一男・坪井主税

六、ミルトンの教育論―その社会思想史的アプローチ。井上昌保（歴史学研究室）

※大学紀要希望者は自然科学編一、三〇〇円、人文・社会科学編二、二〇〇円でおわけします。（送料実費）

申込先

酪農学園大学紀要委員会事務局（内線三二二番）

同窓会だより

〝野外礼拝堂と同窓生会館周辺のグリーン公園化を〟

会館建設委の検討始まる

会館募金の呼びかけに応じて、全国各地の同窓会員、並びに一般篤志家から多くの募金が寄せられた。

なかには義塾出身者の懐かしい思いをこめたお便りもあってますます心強く感じている。ご意見なども反映し今夏の施工を目指して準備を進めているので、一層の募金運動を高めていただくよう皆様のご協力を是非お願いしたい。

建設委員会で検討し次の点を学園に強く要望した。

一、野外礼拝堂と会館周辺のグリーン公園化の検討

一、野幌特産の「赤レンガをイメージカラーとして、小さくともまとまりのある記念ホールをめざす。

以上着工への諸準備等について学園と協議を進めていくが、何よりも募金目標三、〇〇〇万円の達成が前提である。

明年に控えた学園五〇周年記念には、何としても完工式を行うことの出来る様同窓生が始めて行うこの事業の趣旨をご理解頂き、この意義深い機会に全員洩れなくご参加下さるよう願ってやまない。

なお募金者ご芳名は、記念アルバムに収録の上会館に保存し第一期締切分は次号学園だよりで発表したい。

同窓生会館募金状況

昭和56年11月30日現在

単位同窓会	人員	割当額	募金額	募金額／割当額
酪農学科	2,960	6,740,000	986,558	14.64%
農業経済学科	1,398	3,160,000	191,200	6.05%
獣医学科	973	2,200,000	763,800	34.72%
短大1コース	2,225	5,090,000	1,055,400	20.73%
短大2コース	1,123	2,560,000	176,600	6.9 %
機農高校	3,409	7,750,000	2,531,100	32.66%
三愛女子高校	4,543	2,500,000	163,000	6.52%
通信教育			46,000	
酪農義塾			38,000	
小計	16,622	30,000,000	5,951,658	19.84%
教職員一般			139,000	
大学短大同窓会寄付金			2,127,725	
総計	16,622	30,000,000	8,218,383	27.39%

てれほん コーナー

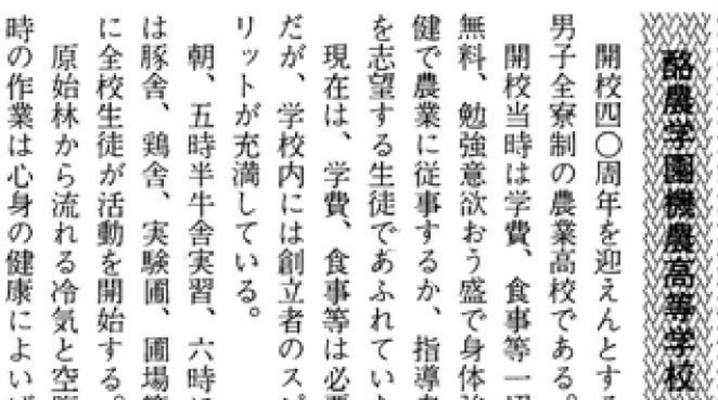
同窓生会館としてデビューすることになった学生手造りの旧短大校舎の建物でついさき頃まで研究室におられ、卒業生からの近況問合せもピカ一の松井教授をチョッと訪ねてみました。

「この建物には大変長い間お世話になった。想い出も数限りなくある。研究器具も充分なかった草創期の頃、よくピンポン台を研究室に持込んで、末光先生、細川先生、長谷川先生、事務の長井夫人などとピンポンばかり……樋浦学長も見かねたか『君君、勉強したまえよ！』そして志摩さんのお父さんからトウキビを頂いてきて研究室でゆでて食べたものだよ」と懐かしそうに語っておられました。その後、大学も相当様変り、先生も現在学生部長で毎日多忙、昨年秋、構内にたむろする六〇〇台余りの車規制に乗り出し軌道に乗せお陰で学園も静けさをとりもどしたが、言い出したらあとへ引かないあの気性は今も健在と見受けました。

新研究室は酪農二号館三階、窓の外には真冬の原始林が一望専門の微生物学研究にはピッタリとのこと。

会館募金には僕も協力するよう力強いはげましを頂きました。

先生の今後のご健斗を祈りたいと思います。（深谷記）



手造りの旧短大校舎と松井先生

酪農学園大学

わが国、唯一の酪農専門の大学である。酪農を真剣に学ぼうとする若人にはここしかない。

酪農学園大学は一九六〇年にスタートし、酪農学科、農業経済学科、獣医学科並びに大学院修士・博士課程を擁する極めてユニークな大学である。

◆一般教育課程

現代人は専門家や、技術者である前に、健全な市民として人間形成がされなければならない。その人間教育の中心にキリスト教学及び学校礼拝がある。キリスト教精神の修得を通じて三愛主義に目ざめた人間形成をめざしている。

◆酪農学科

大学開設と同時に設置され大学の中心をなす学科である。

教育・研究は多岐にわたり、土壌の物理化学、飼料作物、家畜の飼養管理、乳・肉製品の科学、酪農微生物、酪農機械、酪農経営学まで網羅されている。

◆農業経済学科

国家の永続的発展は農業を基礎としてその上に工業や商業及び貿易を盛んにすることによってのみ可能である。

経済学と農学を基礎に日本農業の可能性を追求している。

具体的には「農業経営コース・農政・農協コース・流通経済コース」にわかれている。

◆獣医学科

農畜産界はじめ多様な社会の要請に応えるべく獣医師養成をめざしている。特に現場で活躍する実力ある獣医師の教育に力を入れ、道内で働く若き獣医師の大半は学園卒で占められている。これは文字通り実学を体得した姿であり教育の大きな成果である。

獣医師国家試験の合格率は、九五%以上を示していることも特筆すべきことである。

酪農学園短期大学

わが国のゆれ動く農業政策の中で、一九四九年以来、一貫して三愛精神を基に酪農科学に取組み、実践的酪農人を教育している。即ち、心と頭脳と腕の調和のとれた酪農人の育成である。

第一コースは、二年間で必要な全課程を修了する通常の教育形態である。酪農経営技術の体得に重点をおき、実験、実習に力を入れた教育が行われる。

第二コースは、季節制の三か年コースで、近代的農業を担うすぐれた実践的酪農人の学びの場である。

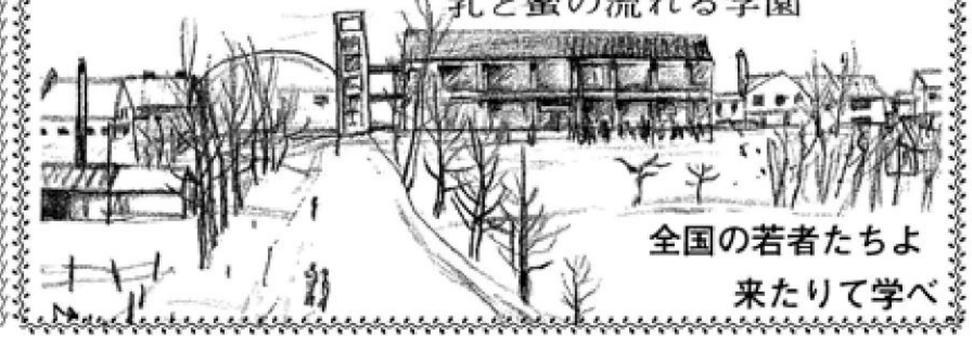
酪農経営に従事しつつ、冬期間集中的に学問と教育に取りくむ独特な教育形態で行われ、実学をモットーとする短大教育の面目躍如たるものがある。

女子学生の増加に伴い生活科学専攻が特設され、生活改良普及員への道をも開いている。

学園紹介

酪農学園機農高等学校

三愛精神にあふれる
乳と蜜の流れる学園



全国の若者たちよ
来たりて学べ

開校四〇周年を迎えんとする男子全寮制の農業高校である。

開校当時は学費、食事等一切無料、勉強意欲おう盛で身体強健で農業に従事するか、指導者を志望する生徒であふれていた。

現在は、学費、食事等は必要だが、学校内には創立者のスピリットが充満している。

朝、五時半牛舎実習、六時には豚舎、鶏舎、実験圃、圃場等に全校生徒が活動を開始する。

原始林から流れる冷気と空腹時の作業は心身の健康にといばかりでなく、酪農経営の根幹をなす労働の尊さを体得させるものである。

八時半から午後三時まで教科の授業、実験実習等が厳しく展開され、放課後は四時から夕方の定例実習が朝と同様、夕食まで行われる。毎週一時間、聖書の授業と全校礼拝が行われ、また寮では毎日の朝、夕礼とともに三愛精神にもとづく人間教育が行われている。

酪農経営者又は指導者を目指す二七〇名の若人達が全国から参集して日夜勉学に励んでいる。

三愛女子高等学校

学園建学の精神ずばりの教育方針の学校である。

神を愛し、人を愛し、土を愛する三愛精神を基調に、知識偏重の教育を克服し、全人教育をねがい、三愛の思想を生徒の血肉とすることをモットーとし、礼拝、聖書、奉仕活動等を通しての人間形成を目指している。

教育は生徒の実態にあわせた、グレード別授業の展開と小人数の授業及びクラス編成等、特色ある教育を展開している。

また、地方からの生徒のためシオン寮（五〇名入寮可）があり、現在四〇余名が充実した寮生活を送っている。

全道一を誇る校舎、礼拝堂、体育館はじめ三〇〇メートルのトラック、ソフト球場、テニスコートなど目を見張るものばかりである。

近くには、酪農学園大学、短大、道立図書館、教育研究所があり、そして野幌原始林へと続き、自然環境、教育環境共に恵まれ、また国鉄大麻駅から歩いて五分の立地条件の良いところにある。

短期大学酪農学校

酪農民の生涯教育に奉仕している学校である。（通信教育）

修了生が約八万七、〇〇〇人もおり、どこの町村にもこの学校で学んだ人々がいる。

酪農科と農業経営科とがあり全国に五〇の分校を設けている。（J）